

ひゅーまん ねつとわーく

地域に生きる

2012年10月 発行／第51号

社会福祉法人北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402 TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



杉の子農園での活動の様子

上写真上段(左から):川合雅也さん 山田雅士さん 若杉支援員 本射里佳子さん 寺南支援員 豊澤徳子さん 中西支援員 池田直治さん

〃 下段(左から):武田誠司さん 金谷大志さん 佐藤由美さん 副島菜央さん

下左写真:竹内涼介さん

下右写真(左から):木戸支援員 笠原尚子さん 有川光洋さん 竹内支援員 中野唯勝さん



杉の子農園の取り組みについて

萩の杜

副施設長 木 戸 貴 之

1. 杉の子農園立ち上げの経緯と目的

平成22年頃より、ご利用者に身体を動かしていただく日中活動の充実を目的として、野菜作りなどの畑活動を導入したいと考えており、何度か土地の候補地を探して検討を重ねてきました。そんな中、平成24年4月に、当法人のケアホームである「レジデンスなさはら」の地主様のご厚意により「レジデンスなさはら」近隣の農園の土地約45坪を無償提供していただきました。その農地を杉の子農園と名付け、5月より、法人の高槻地区日中活動事業所である「ジョブサイトひむろ（生活介護、就労移行、就労継続B）」、「ふれいすBe（生活介護、自立訓練、就労移行、就労継続B）」、「萩の杜日中活動支援センターふれっと（生活介護）」の各事業所がそれぞれの日中活動の一環とするべく、「杉の子農園プロジェクト」を立ち上げました。

杉の子農園プロジェクトでは、まず農園活動の目的を以下の通りに決めました。

【杉の子農園の目的（ビジョン）】

- 各事業所の就労継続Bや就労移行のご利用者だけではなく、生活介護のご利用者なども含め皆が楽しめる日中活動とする。
- 直接の栽培にはあまり関与できなくても、土や緑を見る、土に触れる、土を踏む、香



杉の子農園

りをかぐ…など自然に触れることで、重症心身障がいの方や重度の知的障がいの方にも、収穫する喜びや自然との一体感を感じてもらおう。

- 新しい生産活動の可能性を模索する。

2. 杉の子農園での活動について

この農園活動の目的に沿った本格的な活動時期を、秋・冬野菜を植える9月初旬頃に定め、5～9月初旬の約4ヶ月間で農園活動の体制整備や農機具等の準備、農園専従の実務担当職員の募集などを、プロジェクトメンバーによる会議で進めていきました。

プロジェクトのメンバーには、農作業経験のある法人副理事長を中心に各事業所より1～2名の職員が事業所の代表として集まり、定期的な会議を開催すると同時に、4月末より先行的に植付けをしたスイカやカボチャ、ジャガイモ、サツマイモなどへの水やりや農園全体の草抜きを各事業所で担当曜日を決め、ご利用者の日中活動の一環として行なってきました。



収穫物 スイカ

そして農園での活動を法人内で完結させることなく、杉の子農園周辺一帯の畑を管理していただいている管理運営者を始め、地域の方々にもご協力とご指導をいただきながら、農園の運営を行なっています。また、かねてより募集していた農園専従の実務担当者も8月

初旬に迎えることが出来、各事業所の担当曜日にご利用者と共に行なう活動だけではやりきれない杉の子農園全般の細かな手入れをしていただいております。

3. ご利用者との収穫・植付け

7月中旬より、4月に先行的に植付けをしたスイカ、カボチャ、ジャガイモなどの収穫を、また9月初旬にはジャガイモの植付けを、事業所ごとの活動としてご利用者と職員で行ないました。

収穫や植付けに参加されたご利用者お一人お一人が、本当に楽しそうに収穫をされており、室内ではなかなか活動に乗りきれないご



収穫物 サツマイモ

利用者が、収穫や植付けの時には生き生きと活動されている姿を見せていただけたときなどは、こういった農作業の魅力が改めて感じることができました。

4. 保護者や職員を含めた地域の方々との連携

杉の子農園では法人理念である「地域に生きる」の実践モデルの一つとして、職員や保護者様も含めた地域の方々との交流、コミュニティの場としての機能も果たしています。6月末には、先行的に植付けていたスイカやカボチャをカラスやイノシシから守るための柵作りを、前述の近隣一体の貸し農園全般の管理運営者や各事業所の保護者様にご協力を呼び掛けて行ないました。また8月下旬には、再び地域の方や各事業所の保護者様にご協力を呼び掛けて、杉の子農園のうね作りを行ないました。暑い中多くの保護者様に来ていただき、また地域の方々からは土の搬入の手配、うね作りの際の農機具の貸し出しなどのご協力をいただきました。

5. 今後について

うね作りや秋・冬野菜の植付けも終え、本格的な稼働を始めた杉の子農園ですが、農園での活動を通して、本当に多くのご利用者が土にさわり、収穫や植付けをする楽しさに触れていただくことができました。ご利用者の屈託のない笑顔が見られたことで、本当にこのプロジェクトを行なって良かったと感じています。

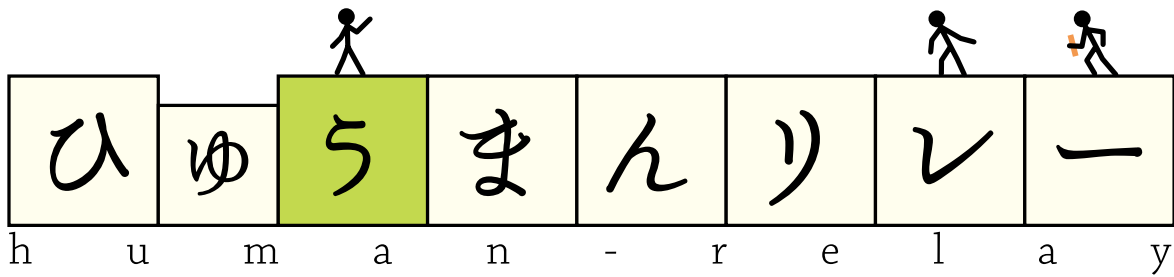
今後も、ご利用者の素敵な笑顔あふれる活動を目指して、法人理念である「地域に生きる」を大切にしながら、地域の方々や保護者様、各事業所のご利用者・職員との触れ合いも大切にしていきたいと思っております。そして秋・冬野菜の収穫時期には、保護者様や地域の方々、ご利用者や職員が、取れた野菜を現地で調理し、鍋を皆で囲む日を想像しながら、今後の活動の充実を目指していきたいと思っております。

そのためにも、杉の子農園活動に参加している各事業所の連携をより密に図っていき、それぞれの取り組みの工夫などを共有し合い、事業所の枠を超えて、法人職員としての価値観の共有化や組織の活性化につなげていけたらと考えています。

最後になりましたが、法人後援会より、杉の子農園の体制整備にご寄付をいただき、物品購入に充てさせていただきました。今後も、後援会から頂戴しました貴重な寄付金をご利用者の農園活動の充実のため有効に使わせていただきますと共に、厚く御礼申し上げます。



ご協力いただいたの方々



NPO法人ぴーす 生活支援グッズのお店「ぽっしえ」店長

(福祉情報技術コーディネーター1級/福祉用具専門相談員/博士[工学]) ^{なかぞの しょうご} 中園 正吾さんより

障がいを支援するモノの活用と普及

私たちは、日常生活の中で道具・機器などのモノを活用し、日々の暮らしを楽しく豊かなものにしています。近年、情報通信技術(ICT)の進歩によって、さらに便利なモノが増えたことや、インターネットに接続できるのが当たり前の時代になって、簡単に情報の入手やモノが買えるようになり、生活習慣などにも変化を与えるようになってきました。

しかしながら、障がいのある方の暮らしの中には、支援機器など便利なモノの情報が行き渡っておらず、まだまだ活用や普及がなされていない現状です。5月8日に新装オープンした常設店舗で、障がいを支援するモノの活用と普及のビジネスモデルの構築に挑戦しています。

● 障がいを支援するモノ

障がいのある方の暮らしの質が向上し、楽しい人生を過ごすことができるように、様々なモノを活用しない手はありませんよね。

最近になって、ようやく障がいを支援するモノを利用する方が増えてきましたが、それらを店舗で販売している所はまだまだ乏しく、多くの場合インターネットでの購入となります。いろいろなモノを試すことや新しく使い始める場合、モノを手にとれないことから、とても不安を感じられているようです。また、購入したモノの使い方がよくわからない場合や、使ってみるとあまりよくなかった場合などの相談先にもお困りのようです。

● “モノ”ビジネスの課題

障がい児・者に関する分野において、モノを扱うほとんどの企業・団体は、それ自体でビジネスとして成立していません。マーケットが小さいことやニーズの多様性などがその理由としてよく挙げられますが、モノを実際に使用する当事者自身が、モノを適切に選べないことや、モノの対価が支払われるルートが違うことが、他の業界での、モノを扱うビジネスと根本的にシステムが違うからだと考えます。

障がいを支援するモノの選択には、専門的な知識と技術的サポートが必要であり、中間ユーザーと呼ばれる各種学校の教員や病院の医師や療法士、施設の支援者やボランティアさんな

どが担っています。このような中間ユーザーの知識・技術レベルや情報力には個人差があったり、地域による差があったりします。そして、それらモノの入手のための流通の仕組みの違いも複雑に絡み合い、ビジネスとして成立できないものとなっているのではないのでしょうか。

業界の常識や慣例を排除した、斬新な発想での情報提供と活用教育のシステムを確立することが必要ですね。

● “ぽっしえ”って？

“poche(ぽっしえ)”は、フランス語で“ポケット”の意味の単語です。

「ドラえもん」が、主人公「のびた」の困りごとを支援するために、非常に便利なモノ(道具)をポケットから選択して、「のびた」の成長を助けていますね。

そんな「ドラえもん」役になり、店内には様々な障がい支援するモノをたくさん揃えて、フィッティングしたいとの思いから命名しました。

新装オープンに際して、多くの支援機器・グッズを扱うメーカー・商社・団体にご賛同くださ

り、アナログなモノから最新のデジタル機器やソフトウェア(アプリ)まで、国内では他には類を見ない多くの商品を、いつでも“見て・知って・触って・買う”ことが出来る場となりました。是非、お気軽にお立ち寄りくださいませ！

● 身近でどこにでもある

毎日、当事者・ご家族・教育関係者・福祉関係者・医療関係者・企業関係者など様々な立場や所属の方がご来店くださり、予想以上に“ぽっしえ”という場のニーズを確信しております。その一方で、新たな課題が多くあることも分かってきました。

「靴べら」、「メガネ」、「ライター」、「洗浄便座」などの商品は、元々は肢体に不自由のある方向けのモノ(福祉用具)でした。しかし、現在、誰もそれらのモノを福祉機器や支援機器とは呼ぶこともなく、簡単に手に入れて使用しています。そのようなモノが増えること、そして、“ぽっしえ”のような場が、多くの地域のコミュニティの中に、さりげなくあるようになればと切磋琢磨して参ります。



生活支援グッズのお店「ぽっしえ」 <http://p-s-sakai.net/shop.html>

地域における包括的支援体制の構築をめざして

～地域連携を考えて～



障がい者就業・就労サポート協働機構

障がい者就労サポート事業

事業統括者 ^み三 ^{やけ}宅 ^{よし}嘉 ^み美 さんより

JLS（ジョブライフサポーター）の名称でご愛顧いただいている障がい者就労サポート事業（2012年度から「障がい者就労支援強化事業」）は、大阪府と中核市の委託事業で、府内（政令市を除く）の福祉施設を利用している障害のある方を対象に、アセスメント～企業開拓～マッチング～現場での支援～フォローアップと所謂ジョブコーチ支援を行い「施設からの就労」を促進する事業として2005年にスタートしました。

当時は、「就労支援の抜本的強化」を謳った障害者自立支援法の施行一年前。ようやく障がい者施設・作業所も就労支援に関心を持たれ始めたころでした。施設をもたない私たちが、まず取り組んだことは地域の支援機関を一軒一軒訪問し、就労支援の裾野を広げていく作業でした。

しかし「福祉施設」も、その成り立ちや地域性、規模、支援されている障がい種別など様々です。私たちは、まず施設の実情を理解し、決して「やってあげる」「やってもらう」関係ではなく、就労支援のパートナーとして施設の事情に応じた連携の仕組みを提案し、役割分担を行い、支援ケースを重ねることで、施設の地域の就労支援力

の向上に繋げていきたいという思いでした。

また支援する上で大切にしてきたことは、①制度や施策に縛られ「働かねばならないから働く」ではなく、内発的な「働きたい」という意欲と可能性を引き出すこと、②「できること」に着目し、人と人、人と仕事の出会いを創出し、途切れのない丁寧な支援をすること。それから、地域における持続可能な支援体制を構築したい、という思いでした。

現在、約200の支援機関から1200名（うち600名は就労中）の障がいのある方が登録されており、昨年は210名の方を就労に繋ぐことができました。これも「ジョブサイトひむろ」さんや「ふれいすBe」さんはじめ地域の支援機関との連携のお蔭だと感謝しています。

この10年で就労支援を取り巻く環境は大きく変わりました。地域の支援機関においても特色の明確化や専門性が問われるようになってきました。私たちも常に時代の要請をキャッチし、次の役割を思考しながら、地域の皆様から必要とされる中間支援機関であり続けたいと願っております。これからもどうかよろしくお願ひします。



社会福祉法人 聖ヨハネ学園
附属 下田部保育園

園長 小^こ池^{いけ} みどりさんより

当ヨハネ学園は1889年、宣教師リーラ・ブール女史の指導のもと創設され「最高の喜びとしあわせを求めて」との精神を受け継ぎながら、現在では幼児・児童の福祉、障がい者の福祉、高齢者の福祉という3つの柱を持つ事業体として法人の理念「いのちがかがやくために」を掲げ、地域に開かれた福祉事業を行っています。

幼児・児童の福祉である下田部保育園は、1971年より事業を開始し、創立39年目の2010年に待機児解消のため120名の定員を150名に増やし、耐震対策を考慮し増改築しました。「あかるく、ただしく、たくましく」の保育目標のもと、たくさん子ども達が安全で安心して過ごせますよう保護者の方々にも協力していただきながら、地域に根差してきています。私自身下田部保育園で33年色々な事に携わってきました。その当時に比べると時代の移り変わりと共に保育も発展し、特に子育て支援は充実し、取り組みが進むにつれ、やはり「地域」とは切り離せないものがあると確信しました。そう感じ始めたころ、高槻市民間社会福祉連絡会が発足され、それぞれの福祉分野の方々との連携と社会福祉協議会との協働の、「あんしんねっとあゆむ」の推進委員で活動するなかで、「ジョブサイトひむろ」様と「ぷれいすBe」様の出会いがありました。2011

年より体験実習を重ね、今年の6月より週4日園内清掃をしていただいています。現在に至るまで職員の方々の熱心な指導はもとより、専門性を発揮され、就労に向けての研究、分析がしっかりなされていたため、安心して就労をお任せすることができたのは言うまでもありませんが、就労した今でもフォローしていただき、本当に自立して就労される方自身のことを第一に考えておられるのに頭の下がる思いでいます。そして何より、保育園での働きを喜んでおられることを嬉しく思います。また、子ども達にも「ありがとう」の感謝の気持ちも芽生え、お互いよい関係が構築されています。

今後、北摂杉の子会の「地域に生きる」の精神と、この下田部保育園での受け入れを充実させ、地域に情報発信し、様々な支援が福祉の分野を問わず繋がっていけるよう取り組んでいきたいと思っています。



🌲 まの・すぎのこ こどもクリニック開設を踏まえて 🌲
～ 北摂杉の子会との医療連携を目指して ～



スパイスかビタミンか

社会福祉法人 北摂杉の子会 嘱託医
まの・すぎのこ こどもクリニック

院長 真野 利之 さんより

皆様からいろいろなご支援をいただき、9月3日まの・すぎのこどもクリニック（以下クリニック）をなんとか開院する事ができました。関係の方々に厚くお礼申し上げます。開院してからは正直トラブルの毎日でヒヤヒヤの連続ですが、まだ2kg程度やせただけですんでいます。2008年の偶然の出会いから約4年の試行錯誤と議論を重ね、ようやく第一歩を踏み出せた事になります。どんな形で連携をとっていけるか、少しずつ皆さんと具体的に考えて行きたいと改めて思っています。

これまでお話しする機会に何度も強調しましたが、ハンディを持つ持たないに関わらず暮らしがすべての中心にあると思います。医療はそれを支える裏方です。医者は病気を相手にします。発達障害というのはある意味で病気です（育て方などの後天的な要因が原因ではないという意味で）が、糖尿病や高血圧で服薬を続ける病気とは現在の医療では異なります。

医療の世界もどんどんかわり、医師自身患者さんに話す治療が10年前とは、違う事をお話しています。極端な場合、真逆の事をお話することもあります。“発達障害”という“病気”も現在は診断のみで（かなり曖

昧な部分も多いのですが）治療は、教育的アプローチが中心で投薬などの医療は限定的なものだと思います。たとえどんな薬ができたとしても基本的な構図は変わらないでしょう。

“スパイス”と“ビタミン”という二つの言葉を考えてみたいと思います。

スパイスという言葉は、『一般的に、食物の味をととのえ、少量で食品素材の品質を高めたり変化を与えたりするもので、風味や辛味、さらには刺激的な香りや快い香味を食物に付与する薬味である。味や香りの多様性、多面性がスパイスの持ち味である。

（日本大百科全書から）』

もう一つはビタミンという言葉です。

『天然食品中に微量存在する一群の有機物質で、正常な物質代謝に必須^{ひつす}であり、摂取食物中にこれが欠乏すると欠乏症がおこる。微量で生体内の物質代謝を支配ないしは調節する働きをするが、それ自体はエネルギー源や生体構成成分とはならない有機化合物であり、しかも生体内では生合成されず、食事などによって外界から摂取しなければならない不可欠栄養素。（日本大百科全書から）』とあります。ビタミンはないと病気になるります。気軽にビタミンという言葉

を使いますが、本来は絶対に必要なものを意味します。ただしそれは人と猿では違うように、一律ではありません。

医療というのは、生きていくすべての人にとってビタミンだと思います。決してスパイスではないと思います。福祉や教育も同じです。福祉と医療、あるいは教育はお互いがビタミンとして必要な存在です。お互いの必要性をきちんと認識した根本的な関係がとても大切だと思います。そうでないと付加価値的なスパイスになってしまいがちです。

また、ビタミン過剰症という病気があります。ないと困るビタミンも多すぎると病気を起こす事があります。お互いが適切な関係を保つ事がとても大切だと思います。

杉の子会とクリニックとの関係もこういう基本的な認識の上で、新しい関係を創造していきたいと思います。実際の話は杉の子会の窓口になっていただいている方々と現在相談中です。まだまだ力不足ですが、新しいものを作っていく産みの苦しみを時間かけてすすめていきたいと思います。

改めてこれまでの多くのご支援に感謝するとともに、長い目でおつきあいいただけるよう、重ねてお願いいたします。

同じ船に乗った^{どうきょう}同行のものとして。

筆者のご紹介

真野 利之(まの としゆき)さん

日本小児科学会 小児科専門医(1993)

日本小児神経学会 小児神経専門医(2004)

[主な経歴]

1989 大阪大学医学部卒業

1989 大阪大学医学部附属病院研修医

1990 国家公務員共済組合連合会大手前病院 小児科

1992 大阪大学医学部附属病院 小児科

2000 大阪府立急性期・総合医療センター 小児科

2005 南大阪療育園 小児科

2008 大阪府立母子保健総合医療センター 小児神経科

2012 まの・すぎのここどもクリニック開設



平成24年度 新規事業

発達障害のある大学生支援モデル事業の受託について



社会福祉法人 北摂杉の子会 常務理事
ジョブジョイントおおさか

施設長 ^{まつ}松 ^{がみ}上 ^{とし}利 ^お男

1. 自閉症・発達障害のある人たちに対する福祉制度・サービスの現状と課題

平成22年12月に「障害者自立支援法」の一部改正がなされました。

その改正により、それまでは社会福祉サービスの利用の対象外とされていた発達障害が障害者自立支援法における障害の範囲に位置づけられることになりました。

しかし、自閉症・発達障害のある人たちの特性やニーズに基づいた福祉サービスの整備は、これからの大きな課題としてあります。

2. 北摂杉の子会の取り組みと「ジョブジョイントおおさか」開設の狙い

私たち北摂杉の子会は、福祉の谷間にある自閉症・発達障害のある人たちの必要とされる福祉サービスの創造、支援モデルの発信に法人開設当初より先駆的に取り組んできた歴史があります。

近年、特に知的障害を伴わない高機能自閉症・アスペルガー障害のある方の就労支援ニーズが増えてきたことで、支援のあり方や新しい支援サービスの創造が求められてきました。

私どもの「ジョブジョイントおおさか」は、そのような社会的課題の解決、とりわけ自閉症・発達障害のある人たちの「働きたい」という意欲を受け止めて、そのニーズに応える

ために、平成23年4月に開設いたしました。

現在、企業実習等、実際的な就労経験を積み上げて企業就労への支援を行うプログラム（就労移行支援事業）と働く上での基礎となる生活リズムの安定、自立してできることを増やし、働く意欲の向上に重点を置く就労準備プログラム（自立訓練事業）を設けて支援を行っています。

3. 発達障害のある大学生支援モデル事業について

高機能・アスペルガー障害のある方が大学等の高等教育機関に進学されるケースが増えており、その先にある就職活動が上手く行かず、なかなか就労に結びついていない現状があります。大学在学中から地域社会での就労に向けた支援をすることが、フリーター・ニートの予防につながると考え、昨年12月に大学向けの「発達障害のある学生支援セミナー」を開催したところ、関西の大学を中心に22大学から約50名の方々の参加がありました。

このセミナーの開催を通して、改めて大学における発達障害のある学生支援についての課題の多さを認識しました。

そのような経緯の中で、今年度「発達障害のある学生への就労支援モデル事業の創造と発信」をテーマとして、厚生労働省の「平成

24年度セーフティネット支援対策等事業費補助金（社会福祉推進事業分）」に補助金助成申請を行いましたところ、6,876,000円の事業補助金の交付を受けることができました。

事業名、事業実施目的、事業実施計画、検討委員会メンバーは以下の通りです。

1. 事業名：「社会的就労支援事業のあり方に関する調査・研究事業」

2. 事業実施目的：

- ①フリーター・ニート・引きこもり（予備軍含む）の実態調査
- ②支援付き就労体験モデル事業の実施による未就職大学生の予防

3. 事業実施計画：

- ①フリーター・ニート・引きこもり（予備軍含む）の実態調査
- ②－A：ニート・引きこもり（予備軍含む）への支援方法調査
- ③－B：支援付就労体験の先進モデル作り
- ④課題整理と効果的な支援プログラムの抽出

4. 検討委員会

所 属	肩 書	氏 名
社会福祉法人 豊生ら・ばるか	代表理事	夏目 浩次
PandA-J/ 毎日新聞社	論説委員	野沢 和弘
PandA-J/ 白梅学園大学	教 授	堀江まゆみ
滋慶医療科学大学院 大学	助 教	岡 耕平
テンプスタッフフロン ティア 株式会社	代表取締役社長	中村 淳
株式会社 WOW GROUP	障がい者支援人材事 業部法人営業課課長	上前 忠司
株式会社インサイト	代表取締役	関原 深
株式会社インサイト	主席研究員	窪 貴志
特定非営利活動法人 自閉症eサービス	代 表	中山 清司
社会福祉法人 北摂杉の子会	常務理事 ジョブジョイントお おさか 施設長	松上 利男
社会福祉法人 北摂杉の子会	ジョブジョイントお おさか 副施設長	高橋亜希子

現在、事業実施目的の1つである「支援付き就労体験モデル事業の実施による未就職大学生の予防」について、「発達障害学生のための職場体験（インターン サマープログラム）」を実施しているところです。

この「インターン サマープログラム」に、12大学から14名の学生の方々に参加いただき、ガイダンス・事前プログラム（事前面談・業務体験・ビジネスマナー基礎講座2日半程度）・5日間のインターン・振り返り面談の順に進めています。

また、5日間のインターンでは、8企業様からインターン受け入れのご快諾をいただき、発達障害のある学生にマッチする業務の切り出しや社内での啓発にご協力をいただきました。

①就労体験を積むことで、就労へのイメージをつかむこと、②自分自身の特性を理解し、自分の強みが発揮できる環境と職種を知ることが目的として、実施しています。

調査・研究事業の終了後に、改めて皆様に事業成果についてのご報告をさせて頂きたいと思っています。

今回は、調査・研究事業費の助成金交付とその概要についてご報告いたします。

最後になりましたが、今回ご協力いただいている企業・大学・関係機関・ご家族の皆様のご理解とご協力に対しまして、心からお礼申し上げます。



プリセプターシップ導入へ ～より質の高いケアの為に始めること～



高槻地域生活総合支援センターふれいす Be

前 重身生活介護チームリーダー 木 下 理 恵 さんより

●はじめに

「ふれいす Be」は当法人の中で重症心身障がい者（以下、重身）へのサービス提供をおこなっている唯一の事業所です。唯一のサービス提供場所だからこそ、他の事業所とは異なりスタッフの代用がききません。毎日命を懸け通所してくださるご利用者へケアの質を下げることなく一定の支援を継続し続けるには、以下の3つの課題がありました。

- ①スタッフの定着
- ②重身の基本的な知識・技術の習得
- ③育成体制の充実

これらの課題に対応するため、人材育成としてプリセプターシップを導入しましたので、その経緯と内容をご報告いたします。

●導入までの経緯

重身生活介護スタッフの特徴として、介護や福祉に携わることが初めての方が多数を占めているということがあります（特に重身は事業所自体が少ないことから、経験者を見つけることが困難な状態です）。スタッフは厳しい環境で日々のケアを行っていますので、実際の介護や支援の中で、不慣れな環境に不安や不満が高まってしまうリスクもありました。一方、現場の実情としては未経験のスタッフに対して少しでも早く立ち立ちすることを望んでしまいます。これらを解決するためには人材育成の体制を確立する必要があるとして、プリセプターシップを導入することとなりました。

●内容

【プリセプターシップにおける階層】

プリセプティ	入職1年目にあたるスタッフ
プリセプター	入職3年以上の経験者
アソシエーター	両者をサポートする5年以上の経験、実績のある者

【プリセプターシップの目的】

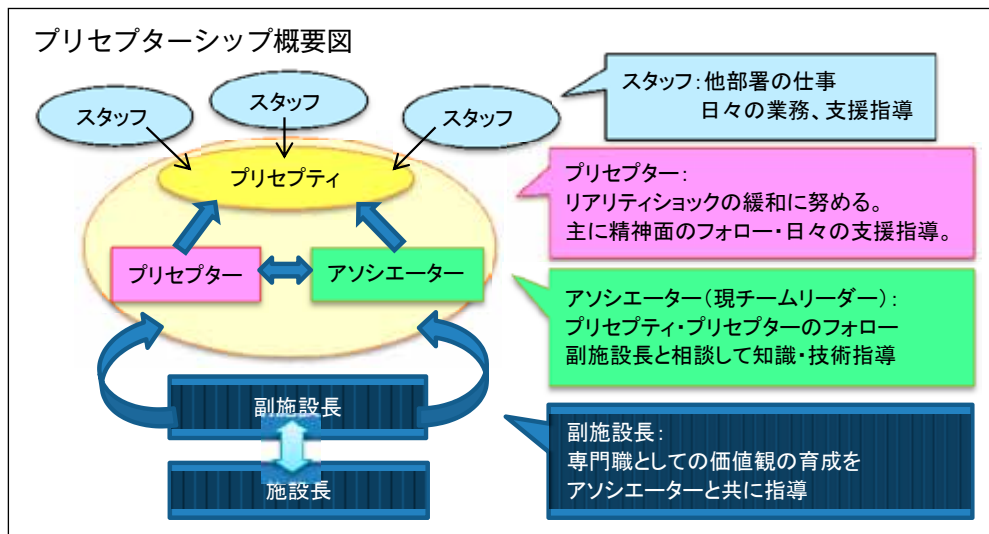
目的	①より早く職場に適応 ②専門職業人としての自覚と責任 ③介護、支援観を築く
利点	プリセプティの特徴、問題点、課題を明確化。優れている部分や可能性を引き出せる。
注意点	①期間 ②ストレスの軽減 ③目標設定 ④プリセプティ、プリセプターの成長評価

プリセプターシップは医療機関（特に看護師）で導入されていたもので、医療に関する知識と技術が必要な重身スタッフには、医療面と介護面の2本柱を強めるカリキュラム作りが必要です。誰もが見てわかる領域別のチェックリストを基に、プリセプティは自己評価をおこない、3ヶ月毎にプリセプターに提出し、必要な知識技術の習得と課題について確認をおこないました。また、プリセプター、プリセプティが集まり月に1回の研修を実施しました。このようなシステムを考案し、重身生活介護・日中一時・短期入所事業で実施してきました。

導入にあたってはプリセプターシップに関わるスタッフ全員が、「プリセプティとプリセプターはお互いを通し、学び合う環境を作る」ことを理解する必要があります。また、プリセプターには①アドバイザー ②コミュニケーション

ン ③ナビゲーターの要素が必要とされます。さらにはプリセプティ、プリセプターが自己研鑽や成長に繋げられるように向上心を持って勤

められるよう、アソシエーターの存在が不可欠となってきます。



●取り組んだことの特徴、そして課題

1. マンツーマンでの指導体制

新任介護職員に、先輩がプリセプターとして着任することで、今までにあった初期段階での様々な混乱を防ぐことができました。責任を持って関わっていく中で、習得状況や成長段階を見極めながら適切な指導を行っていくことが重要となります。プリセプターには知識・技術だけでなく、価値観やコミュニケーション能力が要求されます。

2. プリセプティの悩みを共有した指導

プリセプターは3~4年目の経験の浅いスタッフが担当しました。プリセプティが一人の支援員として育つまでには様々な悩みや壁があります。その時に3~4年目の職員であれば自分を振り返り、プリセプティの悩みを我がこととして受け止めることができやすいと考えられたからです。指導にはまず悩みを表面に引き出し、受け止め、共有することが必要となってきます。

3. 月毎に整理されたカリキュラム

目標は、チェックリストに沿って変化していきます。習得すべき知識、技術が整理されたもので、どの段階でどこまで習得するかを常に確認できます。実際に自分が習得できている内容が自己評価できることが、次の課題へつなげることができました。また、指導する人によって内容が異なることや、漏れが無いようにするためにも有効でした。統一したカリキュラムを進

行していくには、今後も適宜指導者間の連携が必要となってきます。

4. 時間をかけた指導

プリセプターシップの期間は1年間としています。プリセプティが直面する課題は様々です。その時々悩み、課題を受け止め、一緒に考えながら育てていくことがプリセプターに求められます。プリセプター自身のモチベーションを高め、機転を利かせられる力を伸ばしてあげられる環境も重要です。

5. プリセプターへの支援

着任する前年に、その年のプリセプターの補助として1年間学んでもらいます。しかし、実際に指導する中で様々な不安や課題が出てきます。適宜アソシエーターが介入し解決をしていきます。プリセプティだけでなく、身近でプリセプター自身も支える姿を見て良き指導者となるためにもアソシエーターの存在が欠かせません。

●おわりに

良いサービスを提供するためには環境設定が必須だと感じています。長期に亘り、楽しく向上心を持って働いてくれるスタッフが居てこそ、今の通所が存在します。今後はプリセプターとアソシエーターの育成が課題となっています。チェックリストやカリキュラムの改正を続け、求められる場所にしたいと思っています。

御一読頂き、ありがとうございました。

ノロウイルスの感染に伴う拡大防止対応と対策



萩の杜

主任 山根 和史

1. はじめに

平成24年1月、萩の杜でノロウイルスによる集団感染が発生しました。萩の杜では感染症対策マニュアル整備などの対策を行っていましたが、実際に集団感染が起こると様々な課題が浮かび上がってきました。今回は集団感染の経緯と実際に行った対策についてご報告させていただきます。

2. ノロウイルスによる感染性胃腸炎とは

主な症状は、下痢、おう吐、吐き気、腹痛ですが、発熱する場合があります。

- 感染してから発病するまでの潜伏期間は、平均1～2日（短くて数時間）。
- 通常は軽症で、症状が1～3日続いて回復します。しかし、乳幼児や高齢者、もともと病気になるなど抵抗力の弱い方が発病すると重症になることがあります。

（大阪府感染症対策HPより抜粋）

3. ノロウイルスの集団感染の経緯

日付	状況	対応
1月15日 (日)	17:00以降 利用者1名が嘔吐	翌日通院し感染性胃腸炎との診断
1月16日 (月)	嘔吐者なし	通院後、静養室1に隔離 ※ノロウイルスと仮定しての対応開始
1月17日 (火)	12:00頃より利用者4名が嘔吐	通院しウイルス性胃腸炎との診断、隔離・静養、通院し感染性胃腸炎との診断
1月18日 (水)	嘔吐者なし	発症者グループ全員、日中活動中止 施設長判断で保健所へ報告、立ち入り指導及び検査、高槻市障害福祉課へ報告

日付	状況	対応
1月18日 (水)	嘔吐者なし	短期入所：設備を限定しての受け入れ集団発症グループのご家族全員へ、集団発症の旨電話報告
1月19日 (木)	自宅にて ①職員2名が下痢症状 ②職員3名が下痢・嘔吐症状 ③利用者3名が嘔吐	左記職員5名は通院、自宅静養 ※症状が治まった後、出勤再開
1月20日 (金)	利用者の嘔吐1名、発熱2名 高槻市保健所より検査結果報告	昨日発症した職員4名は引続き自宅静養、ご利用者よりノロウイルス陽性反応
1月21日 (土)～ 22日(日)	利用者・職員に下痢、嘔吐症状	静養、通院
1月23日 (月)	利用者1名嘔吐	症状のない利用者はふれっくと通所再開
1月24日 (火)～ 25日(水)	新たな発症者なし 先週時点で発症者が10名を超えた為、高槻市ホームページにて、感染性胃腸炎集団発症報告記載	
1月26日 (木)	職員1名が下痢症状	勤務内での発症の為、早退/通院 日中一時支援事業閉所
1月27日 (金)	利用者2名より下痢、嘔吐	家族会定例会にて、施設長より改めて今回の集団発症の経緯報告
1月28日 (土)～ 30日(月)	新たな発症者なし グリーン特養再開 高槻市保健所より、一旦終息との判断の旨、連絡がある。	高槻市障害福祉課への終息報告 ジョブサイトひむろ通所再開にあたり、萩の杜看護師によるジョブサイトひむろ視察
1月31日 (火)	新たな発症者なし ジョブサイトひむろ通所再開	

4. 萩の杜での拡大防止対応と対策

実際に感染症の対策を行う中で、次のような課題が見えてきました。

ご利用者の看病、感染防止のための消毒など職員の業務が増えるなか、職員にも発病したことで人手が不足するといった状況に陥りました。こうした慌ただしい状況で、対策の指示が十分に行き届かないこともみられ、各部署がそれぞれ違う対応を行っていることもありました。

また、感染の拡大防止のため日中活動への参加を中止したため、急な日課の変更で混乱されご利用者もおられました。

集団感染の結果、ご利用者の日常生活は大きく制限され、サービスの質が低下する事態となりました。

こうした状況の立て直しのため、まずは萩の杜職員で役職ごとに役割分担を整理していきました。

萩の杜施設長は家族会・法人本部・行政機関など外部との連絡調整役を担当し、感染の状況などを詳しくご家族に伝えていくことで、「状況がよくわかって安心できる。」などの意見をいただくこともできました。

リスクマネージャー（副施設長）は内部の調整役とし、各職種スタッフ（支援員、看護師、栄養士など）からの意見を集約し対応を決めていきました。また、回覧文書を使用するなど内部の情報共有も積極的に行っていました。

看護師はリスクマネージャーの指示のもと、消毒業務などを支援員と分担したり、医療機関との連携や発病したご利用者の状態の把握を行いました。

栄養士は、調理業務を委託している業者と協議し使い捨て食器を使用する対応を取るなど、厨房へ感染を予防するようにしました。

支援員はリスクマネージャーの指示のもと、各ご利用者の支援、消毒の業務にあたりました。

各スタッフが連携して対応にあたることで、感染症対策を実施しながらも、円滑に業務を進められるようになり、日中活動が中止になった

ご利用者のために毎日の散歩を実施するなど、少しでも日常生活を守れるように取り組んでいきました。

また、ノロウィルスの感染拡大防止には嘔吐処理が大切であるため、素早く嘔吐物を処理できるように、マニュアルを作成しました。次に使い捨てのエプロン、手袋、マスクなどの備品や適切な濃度に薄めた次亜塩素酸ナトリウム系の消毒液を各支援員室に常備するようにしました。

備品やマニュアルを整備しても、職員が理解してないと効果がないので、会議の時間を使って嘔吐処理のロールプレイを実施して、理解を深められるように工夫しています。



嘔吐処理マニュアル

次に日常業務を整理して、1日1回であった施設内の消毒を2回に増やして取り組んでいます。予防を徹底するとともに、集団感染の際に急きよ業務を増やさなくて良いように普段から取り組んでおくようにしました。また、消毒液もノロウィルスに効果のある次亜塩素酸ナトリウムと、インフルエンザウイルスに効果のあるアルコール消毒の両方を用意し消毒場所や、感染症の流行に応じて使い分けられるようにしています。

職員体制の部分では、今回、指揮系統が混乱



嘔吐対応セット

物 品	定 数
ゴム手袋	3 組
マスク	3 枚
ゴミ袋(小)	3 枚
ゴミ袋(大)	1 枚
予防衣	1 枚
テーブルフキン	5 枚

※定期的に物品チェックを
※使用したら必ず補充すること

嘔吐対応セットの中身

したことを受けて、緊急対策本部の設置手順を明確にしました。感染症の流行に限らず緊急時には施設長の判断で緊急対策本部を設置し、リスクマネー

ジャーに情報を集約し、直接現場に指示を出していく体制を整えることで、緊急時に素早く対応し、指示系統の混乱を防ぐことができると考えられます。

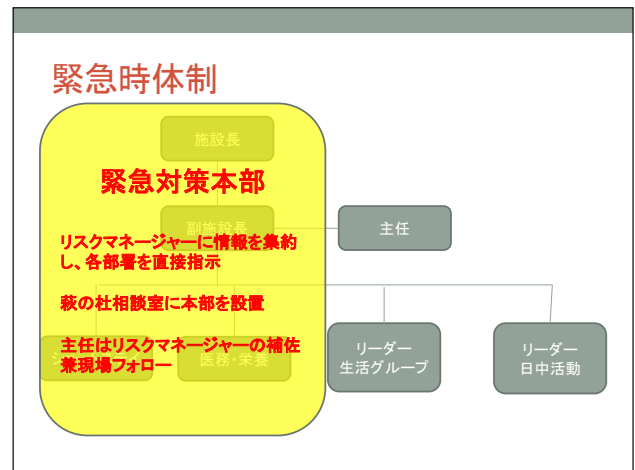
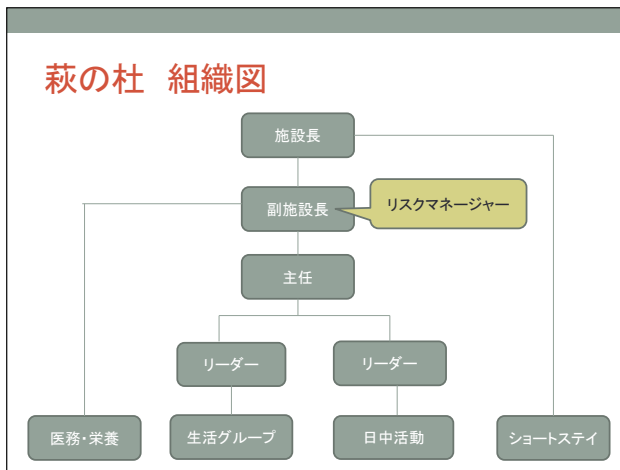
また、萩の杜は、ご利用者12~14名ごとに4つのユニット（居住空間）に別れて生活されています。各ユニットは扉で仕切られ、ユニットごとに食堂、トイレが設置してあります。今後はこうした設備を活かして、ユニットごとに防疫体制を整えていきたいと思ひます。現状では、感染が確認されると、萩の杜全ご利用者の感染

を疑う必要があるため、日常生活に制限を受けてしまいます。しかし、ユニットごとの防疫体制を意識し整備していくことで、感染の拡大をユニット内で抑え、他のユニットでは制限を少なくできると考えられます。ご利用者、職員の接触に注意し、発病者のでたユニットの消毒を集中して行うことでユニットごとに防疫体制を整え、ご利用者が少しでも普段通りの生活が送れるように工夫していきたいと思ひます。

5. 今回の感染症対策から学んだこと

今回の集団感染では、集団感染の怖さと、感染症の対策を行いながらご利用者支援を継続していくことの難しさを実感しました。

そのため、緊急時に組織的に対応することはもとより、通常時から、業務の整理を進め非常事態に備えておくことが大切であると感じました。今回の事例は、萩の杜だけでなく、法人全体で共有し、今後の参考にしてもらうに伴い、少しでも多くのご利用者の生活を守っていくために役立てればと思ひます。





マレーシアでのジョブコーチ養成に関わって

社会福祉法人 加島友愛会

さか い だい すけ
酒 井 大 介

2009年より独立行政法人国際協力機構（以下JICA）の短期専門家及び日本でのカウンターパート研修受け入れ機関として、マレーシアにおけるジョブコーチの人材養成、制度のデザインに関して携わってきました。今回、これまでの活動内容をご報告させていただきます。

1. マレーシアの障害者雇用の状況

マレーシアでは行政機関に対して1%の障害者雇用率が努力目標として掲げられているだけで、民間企業等には特に障害者雇用を義務づける法制度はありません。日本では障害者雇用率が障害のある人を雇用する一番の動機となりますが、マレーシアでの障害者雇用の動機は、雇い入れることで減免制度などがあるものの、CSR（Corporate Social Responsibility）の理念や企業のエモーショナルに頼る部分が多いのが現状だと思います。しかしながら、後にも述べますが、近年マレーシアにおいても障害のある人を雇い入れる企業が増えており、障害者雇用を取り巻く状況が少しずつ変化しています。

2. ジョブコーチ養成のプロジェクト

2009年よりJICAの取り組みとしてジョブコーチに焦点を当てたプロジェクトが実施されてきました。このプロジェクトでは、ジョブコーチの養成、ジョブコーチ制度の確立に向けた支援、ジョブコーチや障害者雇用企業のネットワークの形成の3つを柱にしています。その中で、私は主にジョブコーチの養成の部分に関わり、ジョブコーチの方法論を普及するためには、マレーシア国内でジョブコーチセミナーを開催するなどの啓発活動の必要

があることから、その普及啓発を担う講師・トレーナーとなる指導者を育成することへ協力してきました。

育成方法は、毎年、日本で開催するジョブコーチ・ネットワークのジョブコーチセミナーに招き、セミナーで伝えるべき内容やセミナー運営に関することを学んでもらい、併せてマレーシアでのジョブコーチの実践や雇用管理の参考にするため、日本の障害者雇用の実際を視察することも行ってきました。

研修生は帰国後、日本で学んだことをベースにマレーシアの文化に合わせたプログラムにアレンジしてジョブコーチセミナーを開催しており、年に1回マレーシアに訪問してセミナーのあり方などについて意見交換をしています。



写真1：マレーシアにて指導者との意見交換の様子

3. プロジェクトの状況

この3年間で18名の指導者を育成することができ、その18名が中心となり、マレーシア国内でジョブコーチセミナーが開催され、これまで453名の方が受講されています。また、更なる普及啓発活動の一環としてジョブコーチマニュアルや映像資料なども作成されました。

そして、試行段階ではありますがジョブコーチ制度も誕生し、実践を後押しする仕組みが整い始めており、さらには講師・トレーナーが中心となり、ジョブコーチ・ネットワーク Malaysia も組織化され、就労支援のネットワーク形成にも取り組んでいます。

4. 今後の課題と展望

まだ現時点では、ジョブコーチの実践も首都近郊が中心となっており、今後、全国展開を進めるためには指導者の更なる増加を図り、ジョブコーチが養成され、その地域の企業がジョブコーチを理解し、活用していくことを促進していく取り組みが必要とされています。

今後のプロジェクトの展望としては、国内でのジョブコーチの実践の更なる発展と、これまでマレーシアで培ったノウハウを基に、第三国への支援も視野に入れているとのことです。個人的には数年後、日本、マレーシア、そして近隣諸国が参画するジョブコーチの実践フォーラムを開催できればと考えております。

写真2はジョブコーチ制度について、担当大臣が自ら説明するセミナーの様子です。250人の参加があり、うち100名もの企業の方が参加されていました。雇用率制度はありませんが、経済発展や外国人労働者から国内労働者への雇用のシフトが進んでいるという国内事情もあり、その中で障害者雇用についても多くの企業が関心を持ち始めています。ここに今後、マレーシアにおいて障害者雇用が促進されていく可能性を強く感じています。



写真2：ジョブコーチ制度について説明する担当大臣

障害福祉・障害者雇用施策の現状や働くことに関する風土など、日本と異なる点が多いですが、マレーシアでのジョブコーチの実践がさらに広がり、ひとりでも多くの障害のある人が働くことにより、社会から評価を受けられることに微力ながら今後も協力していきたいと考えています。

北摂杉の子会のホームページ 更新情報

(平成24年6月～8月)

北摂杉の子会のホームページ (<http://www.suginokokai.com>) では、様々な法人の活動や情報提供をリアルタイムで掲載しております。
過去3ヶ月のホームページ更新状況をお知らせいたします。
ホームページでは、機関誌のバックナンバーもご覧いただけます。
ご興味のある方は『北摂杉の子会』で検索して、ぜひアクセスしてご覧ください！

掲載ページ	内 容
法人のご案内	決算書 情報更新
	事業所一覧 こども相談支援センターwish (ういっしゅ) 追加
	お問合せ 情報更新
各施設のご案内	an新聞・will新聞・Link新聞掲載
	ジョブジョイントおおさか インターン・サマープログラムのご案内
	発達障がい児療育支援部 公開講座のお知らせ
	こども相談支援センターwish (ういっしゅ) 追加
	発達障がい児療育支援部 施設見学会のお知らせ
お知らせ	インターンシップ募集について
	日本PWS協会「医療から教育・ケアへ」研修会のご案内
イベント・講座案内	発達障がい児療育支援部 2012年 合同公開講座
	発達障がいのこどもの保護者による家庭での支援 ～実践報告～
リンク集	自閉症eサービス追加
よどのコロッケ	出張販売のお知らせ
	3周年記念セールのお知らせ
	店ヨコ販売イベント
Café Be	ランチメニュー更新
	CafeBe ミュージック・ディ情報更新

■事業所移転のお知らせ

「大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか」「大阪自閉症支援センター」「ジョブジョイントおおさか」が、10月12日(金)より右記の住所に移転し事業を開始しております。

連絡先は「ジョブジョイントおおさか」のFAX番号のみ右の様に変わります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新住所

大阪市淀川区十三東1-1-6

連絡先変更

ジョブジョイントおおさか

FAX 変更前 06-6100-0150

↓
変更後 06-6309-3007

掲示板コーナー

(平成24年6月から平成24年8月まで)

法人本部総務部掲示板

6月	行 事
2日	平成25年採用説明会（生涯学習センター 第2会議室）
7日	平成25年度採用希望者施設見学会 ジョブサイトよど・ジョブジョイントおおさか 医療・福祉連携講演会（高槻現代劇場 402号室） 講師：まの・すぎのここどもクリニック院長 真野利之氏
9日	平成25年採用説明会（高槻現代劇場 306号室）
11日	平成25年度採用希望者施設見学会 自閉症療育センターwill 経営会議 第81回理事会（法人本部 2階会議室） 決議事項 第1号議案 萩の杜 設備改修工事の件 第2号議案 独立行政法人福祉医療機構からの借入の件 第3号議案 萩の杜設備改修工事にもなう工事請負業者の選定方法並びに入札業者の適格条件の件
12日	平成25年度採用希望者施設見学会 ふれいすBe・萩の杜・レジデンスなさはら・ジョブサイトひむろ
14日	運営会議
21日	第82回理事会（法人本部 2階会議室） 決議事項 第1号議案 萩の杜空調設備リニューアル工事 入札参加業者の決定並びに現場説明事項の決定の件 第2号議案 萩の杜空調設備リニューアル工事 予定価格の決定の件
27日	総務会議

7月	行 事
7日	平成25年度採用試験（生涯学習センター 研修室）
9日	経営会議
12～13日	平成25年度採用一次面接（法人本部 2階会議室）
21日	第2回法人研修（高槻現代劇場 305号室） 「地域の生活を支える医療と福祉の連携 －これからのカタチ」 講師：まの・すぎのここどもクリニック院長 真野利之氏 「ジェノグラム作成の基本と実習」 講師：同志社大学心理学部教授 早樫一男氏
24日	平成25年度採用二次面接（法人本部 2階会議室）
25日	総務会議
27日	運営会議



法人研修 早樫教授 講演



法人採用説明会

8月	行 事
6日	経営会議 第83回理事会（法人本部 2階会議室） 決議事項 第1号議案 萩の杜空調設備リニューアル工事 請負契約に関する件 第2号議案 萩の杜改修工事資金計画の件
6・8・21日	インターンシップ希望者面接（法人本部 2階会議室）
21日	重度・高齢化プロジェクトキックオフ会議 （生涯学習センター 第2会議室）
22日	総務会議
24日	運営会議

(河辺 記)

萩の杜 掲示板

【夏季休暇】



かき氷作り



スイカ割り



花 火

8月11日～8月15日の期間は萩の杜の夏季休暇でした。今回は、かき氷作り、スイカ割り、花火に取り組みました。
かき氷は、勢いよく食べられるので、頭がキーンと痛くならないか心配でしたが、おいしそうに食べておられました！
スイカ割りは、気合を入れて棒を振りおろし、キレイに割ることができました！
花火は少し怖がるご利用者もいましたが、みなさん楽しんでおられました！

(勝部 記)

ジョブサイトひむろ 掲示板

(6～8月のレクリエーション・行事・新外部作業場)

6～8月の祝日プログラムや外出時の写真、さらに8月から開始した新外部作業場、せせらぎの里での清掃の様子も掲載しています。
ご利用者の活動の様子をご覧ください。



伊丹スカイパーク 6月18日



祝日プログラム：腹話術の観覧 7月16日



七夕笹飾り 7月7日



新外部作業場 セセラぎの里



カフェ Be ランチ 7月10日



枚方パーク 6月12日

(平野 記)

発達障害支援部掲示板

今回は大阪自閉症支援センターの小学校高学年以上の方を対象とした本人支援コースについて写真で御紹介します。個別評価に基づき、個別支援計画を立案して、事務作業、家事、スケジュール管理、金銭管理、感情の学習、余暇の過ごし方などに取り組んでいます。

時間の管理や、物の管理、体調管理などに一定の成果が出てきたら、進路について、学校について、思春期の

心と体の変化や、親子関係についてもどんどん相談していただけるようになります。自分の苦手なことばかりに目が向いていたけど、得意なことがたくさんあると分ると、安心でき、前に進むことができますね。

本人支援コースでは、6回に1度、家庭・学校との連携もしています。

(新澤 記)



郵便番号による封筒に仕分け作業



小遣い帳 (電卓の使用)



指示書を見てお茶を入れる



感情の学習



余暇の過ごし方

発達障がい児療育支援部掲示板

○児童デイサービスセンターan

6月	行	事
8日	保護者研修	入門
11日	事業所	会議
22日	保護者研修	実践
25~29日	個別支援計画	作成面談

7月	行	事
2~6日	個別支援計画	作成面談
13日	保護者研修	入門
21日	法人	研修
23日	事業所	会議
27日	保護者研修	実践

8月	行	事
11日	施設見学会	
13~17日	夏季	休暇
20日	事業所	会議
24日	ケース	会議
25日	施設見学会	

○自閉症療育センターwill

6月	行	事
1日	実践	交流会
8日	保護者研修	入門A
15日	保護者研修	入門B
23日	施設見学会	

7月	行	事
6日	保護者研修	入門A
13日	保護者研修	入門B
21日	法人	研修
27日	ケース	会議
31日	事業所	会議

8月	行	事
13~17日	夏季	休暇
25日	施設見学会	
28日	事業所	会議
31日	ケース	会議

○自閉症療育センターLink

6月	行	事
1日	実践	交流会
8日	保護者研修	入門A
15日	保護者研修	入門B
23日	施設見学会	

7月	行	事
6日	保護者研修	入門A
13日	保護者研修	入門B
17日	事業所	会議
21日	法人	研修
31日	事業所	会議

8月	行	事
13~17日	夏季	休暇
21日	事業所	会議
25日	施設見学会	
31日	ケース	会議

(谷岡 記)



自立課題 紐通し



保護者研修 自閉症の疑似体験

ジョブサイトよど掲示板

6月	行	事
7日	避難訓練	
11日	施設見学会	

6月には、各グループでレクリエーションに行きました。
行き先は以下の通りです。

5階グループ 須磨海浜水族園

4階グループ アクアライナー乗船+象印まほうびん
記念館

3階グループ 京都タワー

J3グループ パナソニックセンター大阪

7月	行	事
25日	利用者健康診断	
28日	土曜開所日 (クラブ活動)	

8月	行	事
6日	施設見学会	
10日	利用者慰労会	
25日	土曜開所日 (クラブ活動)	
30日	歯科検診	

(佐々木祐 記)



アクアライナー



須磨海浜水族園

ふれいすBe 掲示板

6月	行	事
9日	Cafe Beにてカフェコンサートを開催 (出演：小濱達郎さん)	
11日	兵庫医療大学より作業療法実習として1名を受入 (~8月3日まで)	
13日	大阪市立視覚特別支援学校より体験実習として1名を受入	
18日	通所ご利用者対象健康診断 内部研修「発達障がいについて」(職員26名参加)	

見学：2件9名

7月	行	事
2・6・9・17・ 19・23日	社会福祉法人今川学園大和川園より職員実習として6名を受入	
7日	土曜開所日としてチームごとにプログラム実施	
10日	家族会主催の参観&ランチを開催 (ご家族14名が参加)	
29日	ザバススポーツクラブデルタ夏祭りにてガレット販売	
30日	家族会主催の参観&ランチを開催 (ご家族12名が参加)	

見学：7件41名

8月	行 事
1日~8月末	ザバススポーツクラブデルタにて期間限定でのガレットの常設販売
2日	夕涼みマルシェにてガレット販売（場所：淀屋橋トレードピア）
4日	土曜開所日としてチームごとにプログラム実施
6日~10日	阿武野高校福祉コースより施設実習として1名を受入
11日~15日	夏期休暇
20日~9月1日	龍谷大学より保育実習として1名を受入
25日	家族会主催で父親の会を開催（ご家族11名様が参加）
27日~9月12日	大阪総合福祉専門学校より相談支援実習として1名を受入
29日	兵庫医療大学より作業療法実習として6名を受入

見学：2件2名
（下 記）

【カフェコンサート】

6月9日（土）カフェコンサートを開催しました（出演：小濱達郎さま）。午前、午後合わせて68名の参加をいただき、アットホームな雰囲気の中でコンサートが行われました。ご出演いただきました小濱さまならびに参加いただいた皆様ありがとうございました。



【外出プログラム】

7月、8月の土曜開所日を利用してチームごとに外出プログラムを実施しました。7月は、プール、万博公園、京都水族館などに出掛けました。8月は五月山動物園、ドリーム21、映画鑑賞、遊園地、ランチバイキング、夕涼みなどに出掛けました。



夕涼み



万博公園



ランチバイキング



五月山動物園



ドリーム21

ジョブジョイントおおさか掲示板

6月	行	事
23日	土曜開所日／土曜クラブ	(探検クラブ)
27日	会社見学会	(シニア・ミドルチーム) 株式会社武田薬品工業研修所
30日	発達障害学生のためのインターンサマープログラムガイダンス	(説明会)
7月	行	事
11日	前期健康診断	
17日～28日	第2四半期個別支援計画懇談	
28日	土曜開所日／土曜クラブ	(思考部、体操部、ランチ部)
8月	行	事
3日	会社見学会	(シニア・ミドルチーム) SMBCグリーンサービス株式会社
13日～15日	夏期休業	
18日	土曜開所日／土曜クラブ	(思考部、体操部、ランチ部)

(高橋 記)

萩の杜家族会掲示板

6月	行	事
7日	医療・福祉連携について説明会	(高槻現代劇場 402号室) 「真野先生診療所立ち上げと医療連携について」 講師：まの・すぎのここどもクリニック院長 真野利之氏
11日	イオン黄色いレシートキャンペーン参加	
24日	カトリック教会にて花の販売	
25日	安全対策委員会	
28日	サークル萩開催	手作り品の作成と情報交換会
7月	行	事
11日	イオン黄色いレシートキャンペーン参加	
19日	四家族会会長懇談会	
22日	定例会	ホットトーク「家族同伴グループ旅行について」 萩の杜 勝部施設長より ・安全対策委員会より報告 ・萩の杜改修計画について ・杉の子農園について ・まの・すぎのここどもクリニックへの貸付金について ・各部会報告 カトリック教会にて花の販売
26日	サークル萩開催	手作り品の作成と情報交換会
8月	行	事
27日	安全対策委員会	

(深尾 記)

ジョブサイトひむろ家族会掲示板

6月	行 事
7日	医療福祉連携について説明会 現代劇場402号室（29名参加） 真野先生のお話を十分にお聞きし、多くの賛同を得ました。その後の貸付に対しても多くの方々からご厚志を得られました。
12日	平成24年度 第1回定例会 現代劇場206号室（33名出席） 議題1 真野先生の診療所について 議題2 杉の子農園開設について 議題3 家庭教育支援条例について 議題4 ジョブサイトひむろ、レジデンスなさはらのヒヤリハットについて 議題5 今後の活動について 議題6 会計からの報告及び依頼について 杉の子農園の作業応援につき多数のご支援をいただきました。 永田様より寄贈いただきました絵画につきまして、無事レジデンスなさはらに掲示されました。
26日	有志による「第4回杉の子会ゴルフコンペ」開催 日清都カントリー ジョブサイトひむろから6名の参加をいただきました。

7月	行 事
25日	平成24年度 第2回北摂杉の子会会長懇談会 法人本部会議室 諸般にわたり意見交換 広報委員会 法人本部にて機関誌第50号発送協力

8月	行 事
	特記なし

(宮階 記)

ジョブサイトよど&ジョブジョイントおおさか家族会掲示板

6月	行 事
1日	大阪府発達障がい団体ネットワーク総会参加
7日	医療連携について説明会参加
12日	オアシスサロン開催 100円喫茶実施 家族会役員会開催 100円喫茶実施
13日	十三市参加

8月	行 事
3日	オアシス役員会開催 100円喫茶実施
7日	家族会役員会開催 100円喫茶実施
28日	オアシスサロン開催 100円喫茶実施
29日	理事長と語ろう会開催（参加7名）

(福田 記)

7月	行 事
2日	家族会役員会開催 100円喫茶実施
10日	オアシスサロン開催 100円喫茶実施
13日	十三市参加
17日	定例会開催（会員25名参加） 勉強会「これからの支援法の改正について」 佐々木副施設長、高橋副施設長出席
19日	四家族会会長懇談会 出席
26日	よど勉強会開催 100円喫茶実施

ぶれいす Be 家族会掲示板

6月	行 事
7日	医療・福祉連携について説明会（高槻現代劇場 402号室） 講師：まの・すぎのここどもクリニック院長 真野利之氏 新旧役員歓送迎会 全会員にむけて「年間スケジュールのお知らせとアンケートのお願い」配布
14日	役員会（場所：今城塚公民館） ・AR3短期入所中断についての法人・施設との話し合い議事録確認 ・上半期（7月～9月）活動計画 ①参観ランチ 7/10, 7/30、9/7 ②役員によるグループホーム見学 ③重症心身障害者のショートステイ事業についての話し合い ④父親の会 ⑤その他、最後に下施設長より施設報告
27日	杉の子農園プロジェクトチームの呼びかけによる「杉の子農園柵作り」に暑い中、有志の会員（お母さん）が参加。ご苦労さまでした。
7月	行 事
5日	重度心身障害者短期入所に関する法人、施設との話し合い （場所：ぶれいす Be 会議室） 出席者：松上常務理事、下施設長、AR3会員1名、本城、斉藤、辰巳 内 容：下施設長が訪問してこられた「みなと舎」（神奈川県横須賀市）のDVDを見ながら、施設の運営状況等の報告を受けた
10日	参観＆ランチ 参加者 14名 昨年度に続いて、今期も3回に分けて行う参観＆ランチのその第1回目。 参加者から、前回と比べて子供さんの作業の内容がすすんでいる、施設内の環境がより良くなっている等、うれしいお声も聞くことができた。
12日	役員会（場所：今城塚公民館） ・参観＆ランチの進行状況について ・父親の会について ・会員の入退会と会費の納入状況 ・下施設長より施設報告 他
19日	四家族会会長懇談会 出席
30日	参観＆ランチ 参加者 12名 参加者の声：集中してやっているのびっくりした クリーニングは暑い中がんばっていた スタッフが家では出来ないような配慮をしてくれていた 家では見ないような姿で一生懸命働いていた 昨年よりも落ち着いていた はじめての参観で働いている姿をはじめて見た 2回目だが人数も増え成長し落ち着いていた

8月	行 事
2日	役員会（場所：ぶれいすBe内カフェBe） <ul style="list-style-type: none"> ・参観&ランチの進行状況について ・8/7ケアホーム役員見学について ・10/13定例会について ・下施設長より施設報告 他
7日	ケアホームとんだ見学 ジョブサイトひむろ平野施設長に案内いただいて、役員3名と下施設長で見学
20日	重度心身障害者短期入所に関する法人、施設との話し合い （場所：ぶれいすBe会議室） 出席者：松上常務理事、下施設長、AR3会員2名、本城、斉藤、辰巳
25日	父親の会（ぶれいすBe内カフェBe）参加者 13名 第1部 副施設長 古東さん（社会福祉士）からのお話 「父親の立場で当事者と、どうかかわったらよいか」 第2部 フリートーキング お父さんの色々な思いをざっくばらんに話し合った
29日	杉の子農園プロジェクトチームの呼びかけによる農園の畝作りに、有志のお父さん、お母さんが参加。ご苦労さまでした。

（本城 記）

大阪自閉症支援センターを発展させる会 オアシス掲示板

6月	行 事
1日	大阪府発達障害団体ネットワーク会総会、運営委員会（会長、副会長出席）
6日	家庭教育条例案NW会（相談役出席）
12日	6月度役員会
13日	ホットメールなにわ（会長、副会長出席）
16日	オアシスサロン
25日	新澤先生を囲んでの座談会
26日	大阪府発達障害団体ネットワーク会講演会（会長、副会長他会員）

7月	行 事
8日	7月度役員会
10日	オアシスサロン
15日	就労体験（学齢委員）

8月	行 事
3日	役員会
18日	調理実習（就労委員）
28日	オアシスサロン

（村井 記）

北摂杉の子会後援会掲示板

本会の活動に対し、萩の杜、ジョブサイトひむろ、ジョブサイトよど&ジョブジョイントおおさか家族会、おれいすBeの家族会を含む多くの方々のご支援をいただき、まことにありがとうございます。今後ともより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます

<近況報告>

6月

個人会員：531名、団体会員：11団体
合計：542名／団体 寄付：2件

7月

個人会員：531名、団体会員：11団体
合計：542名／団体 寄付：3件

8月

個人会員：527名、団体会員：11団体
合計：538名／団体 寄付：9件

(8月末までの新規会員)

個人会員：27名、団体会員：3団体 合計：30名／団体

<その他>

2012年度の法人への寄付（150万円）は「杉の子農園」立ち上げ、整備の諸費用に使われています

(棚山 記)



杉の子農園全景



農機具収納所

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。お振込みは右記口座まで、もしくは、同封の振込用紙をご利用ください。皆様のご支援とご協力をよろしくお願い致します。

記

1. 寄付金(注)
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座北摂杉の子会
00920-8-90859

(注) 任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

銀行名：三菱東京UFJ銀行 支店名 高槻支店 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会 理事 中村節史
口座番号：5085555

法人へのご寄附に感謝いたします。(平成24年6月1日～平成24年8月31日)

上野嶺子 棚山薫晴 中村節史 三宅達也 社会福祉法人京都国際社会福祉協力会合同親の会 山田 喜美嘗
自閉症の人のバリアフリーを考える親の会 はぐくみ 大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス

後援会入会と会費納入(平成24年5月15日～平成24年8月21日)

相澤美由紀 上里浩子 安部匠真 安部晶巳 安部勢津子 安部美和 安部文博 池下貞子 池田 寛 井桁友紀枝
池田洋子 石田泰二 稲田聖子 井上誠子 井上惇子 井上陽子 伊福久子 今井恵美子 今村一二三 今村圭子
今村誠吾 今村聡之 今村暢也 上前 進 梅本順子 榎本滋子 遠藤一太 遠藤仁子 大谷千由子 垣本寿也子
桂 塩鯛 金光広子 亀田三恵子 川合定雄 川上咲季 関 与子 木下光代 木下信男 木下豊仁 木谷政之
倉本めぐり 黒澤桂子 小林夏子 小林伸次 小林真理子 小林和美 沢田幸子 沢田良造 澤田博美 篠田正道
志村敦子 菅沼朋子 鈴木都美 砂子敦之 関 剛之 副島雄彦 高原加代子 高原正義 高原由江 高宮郁子
田口道代 竹内知子 武富美代子 田代 満 田中由紀子 棚山 妙 棚山薫晴 棚山勝行 谷口智恵子 丹藤舞香
丹藤優香 出口幸平 寺村善則 寺村有里子 徳本晴美 戸田純子 中井喜代子 永井昌明 中島江美子 中島隆三
永田啓子 永田健二 中西 弘 中西邦夫 中村章子 並河 博 西井弘美 西井真弓 西井正美 西井多美
西田源太郎 新田利秀 野口みち子 野口里子 野口良三 橋本 勝 原 節子 原 尚子 日高瓊子 平井雅子
平尾欣子 福田啓子 福田浩三 福田浩隆 福田節子 富宅由美子 藤岡 宏 藤岡紀子 藤澤一雄 藤澤千恵子
藤本信子 古門貞利 降幡 真 本間和子 松岡洋市 真野利之 丸澤容子 丸山繁一 三木春子 南 タミ子
南 浩聡 南 俊一郎 南 昌子 南 直美 南 雄太 宮城良博 宮地和子 宮野尾裕子 宮本栄一 三輪昭夫
森田 弘 森田英子 森田俊博 森田豊子 森田靖紀 森田和成 森谷薫美 森谷弘雅 森谷奈津美 梁 恵子
山口 勉 山根生江 山根裕史 山本明子 山元泰子 吉川輝夫 吉川弘子 吉田保子 吉谷登美子
伊丹産業株式会社

後援会への寄付(平成24年5月27日～平成24年6月19日)

棚山薫晴 松井 潔 林 秀郎 鈴木孝雄 匿名1名

家族会へのご寄附に感謝いたします。(平成24年6月1日～平成24年8月31日)

植松芳哲 本田英世

物品のご提供に感謝いたします。(平成24年6月1日～平成24年8月31日)

滝本 南野 白木 幸 吉岡茂子 鶴谷久子 長井美代子 沢田幸子 長沢 井田 進 不二園芸

ボランティアに感謝いたします。(平成24年6月1日～平成24年8月31日)

坂井恵美子 佐々木映子 佐々木映世 草刈茂代 前田龍秀 永尾貴之 赤木 涼 小寺夏海 浜田穂乃花
伊藤彩香 小坂恭兵 本松陽来 濱田皓希 坂井真由美 西本 愛 井上理香 上田健斗 浅川花恵 村上知世

(敬称略 順不同)

施設住所一覧

- **社会福祉法人北摂杉の子会 法人本部事務所**
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-6 奥野ビル402
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155
[E-mail] info@suginokokai.com
[URL] http://www.suginokokai.com
- **知的障害者生活施設 萩の杜** (施設入所支援・生活介護)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130
[E-mail] haginomori@suginokokai.com
- **萩の杜ショートステイセンター ぶれす**
(短期入所・日中一時支援)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0130
[E-mail] breath@suginokokai.com
- **ケアホーム とんだ** (共同生活介護)
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
- **ケアホーム みやた** (共同生活介護)
〒569-1142 高槻市宮田町3-4-1 105号室
- **レジデンスなさはら** (共同生活介護)
〒569-1041 高槻市奈佐原3丁目15番1号
- **ジョブサイトひむろ**
(生活介護・就労移行支援・就労継続支援B型)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222
[E-mail] himuro@suginokokai.com
- **高槻地域生活総合支援センター ぶれいす Be**
(生活介護・自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援・就労継続支援B型・短期入所・日中一時支援)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900
[E-mail] placebe@suginokokai.com
〈短期入所〉 TEL (072)681-4720
- **生活支援センター あんだんて**
(指定特定相談支援・指定一般相談支援事業)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
[E-mail] andante@suginokokai.com
- **大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか**
(発達障害者支援センター事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-3003 FAX (06)6100-3004
[E-mail] act-osaka@suginokokai.com
[URL] http://homepage3.nifty.com/actosaka/
- **大阪自閉症支援センター**
(法人独自の公益事業〈検査・相談・研修・本人支援・講師派遣〉)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL&FAX (06)4862-5454
[E-mail] o-center@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- **児童デイサービスセンター an**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-8990 FAX (06)6838-7015
[E-mail] an@suginokokai.com
[URL] http://oasc.jp
- **自閉症療育センター will**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056
[E-mail] will@suginokokai.com
- **こども相談支援センター wish**
(指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業)
〒569-0077 高槻市野見町3-14 第2高谷ビル2F
TEL (072)605-1140 FAX (072)662-0056
[E-mail] wish@suginokokai.com
- **自閉症療育センター Link**
(児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412
[E-mail] link@suginokokai.com
- **ジョブサイトよど** (生活介護・就労継続支援B型)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015
[E-mail] yodo@suginokokai.com
- **ジョブジョイントおおさか**
(自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-0150 FAX (06)6309-3007
[E-mail] jj@suginokokai.com

※■は行政よりの委託事業

発行人 社会福祉法人 北摂杉の子会
理事長 中村 節史
発行所 北摂杉の子会
住所 大阪府高槻市大字萩谷14番地1
発行日 2012年10月10日
定価100円